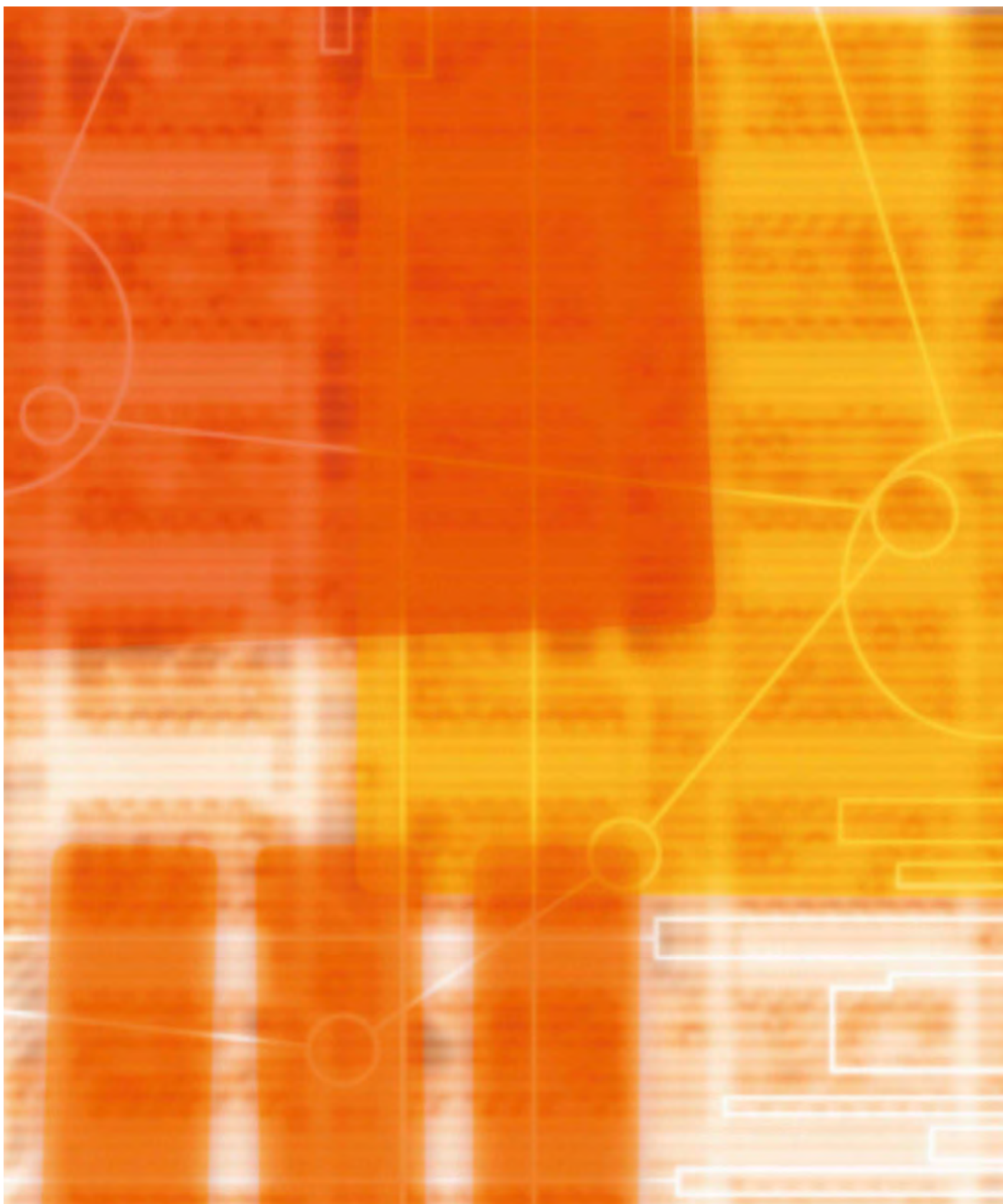


平成27年度 厚生労働科学研究費補助金事業

# 認知症対策総合研究



公益財団法人 長寿科学振興財団

# 認知症対策総合研究とは

認知症の対策には医療分野、福祉分野の効率的な連携による総合的な施策が求められていることから、「実態把握」、「予防」、「診断」、「治療」、「ケア」という観点に立ち、それぞれの観点から施策形成に必要とされる研究を行います。

(1) 認知症のケア技術に関する研究

(2) 認知症の地域包括ケア体制に関する研究

(3) 認知症の経済的影響に関する研究

(4) 医療・介護機関における認知症患者の医療・ケア等実態に関する研究

(5) 認知症の発症に対する危険因子の提言や保護的因子の促進に関する研究

# 認知症対策総合研究推進事業とは

当財団では、厚生労働科学研究費(認知症対策総合研究)の採択課題の研究を支援するため、次の事業を行っています。この公募の案内は、関係する研究者に通知するとともに財団のホームページ(<http://www.tyojyu.or.jp>)にも掲載しています。

## ●外国人研究者招へい事業

当該分野で優れた研究を行っている外国人研究者を招へいし、海外との研究協力を推進する事業。

## ●外国への日本人研究者派遣事業

研究代表者又は研究分担者と同一機関に所属する若手日本人研究者を外国の研究機関に派遣し、当該研究課題に関する研究を実施することにより、我が国における当該研究の推進を図る事業。

## ●リサーチ・レジデント事業(若手研究者育成活用事業)

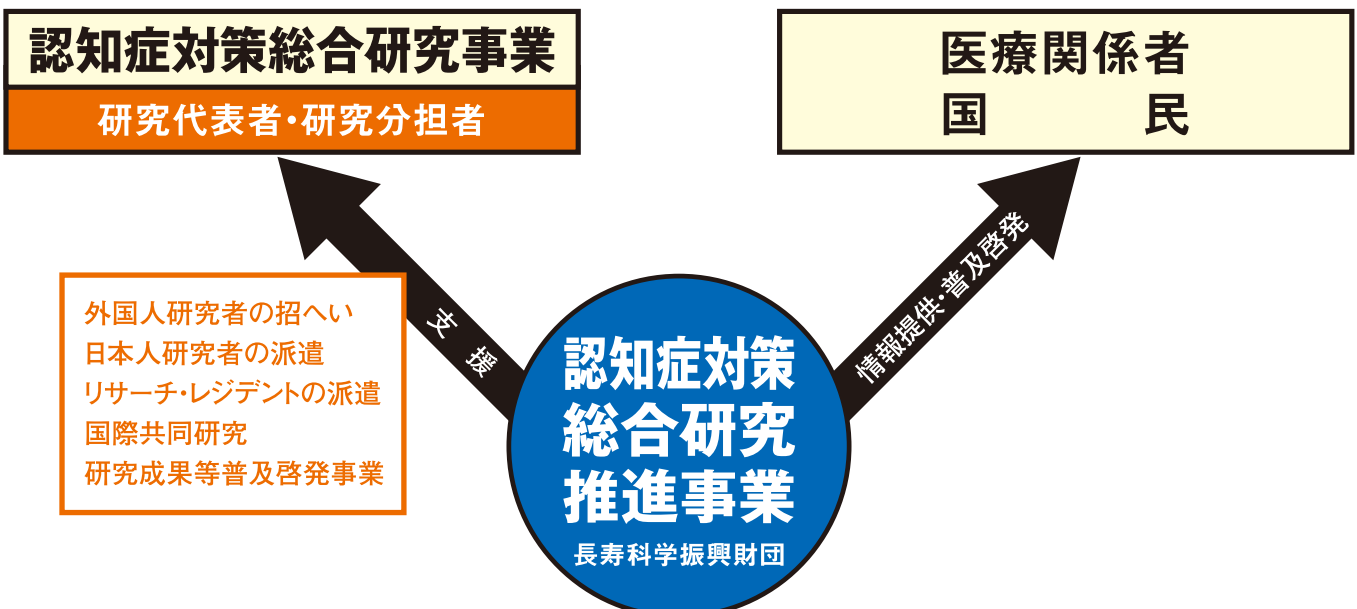
研究代表者又は研究分担者の所属する研究機関に当該研究課題に関する研究に専念する若手研究者を一定期間派遣し、当該研究の推進を図るとともに、将来の我が国の研究の中核となる人材を育成する事業。

## ●国際共同研究事業

外国人研究者と日本人研究者が共同で、当該研究に係る国際共同研究を取り組むことにより、当該研究の推進を図る事業。

## ●研究成果等普及啓発事業

当該研究の研究成果等について、関係の深い分野の専門的研究を行っている研究者や専門的な知識を持たない一般の国民を念頭に置いた発表会の開催及び当該研究事業の取組みを分かり易くしたパンフレットを作成することにより、当該研究の一層の推進と科学技術に対する国民の理解の増進、関心の喚起に資することを目的とする事業。



# 厚生労働科学研究費補助金による研究内容の一部を紹介します

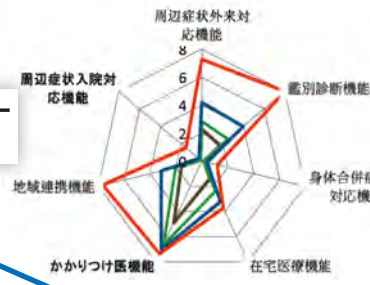
## 認知症非薬物療法の普及促進による介護負担の軽減を目指した地域包括ケア研究

### アミロイドPETの結果と一致するバイオマーカー

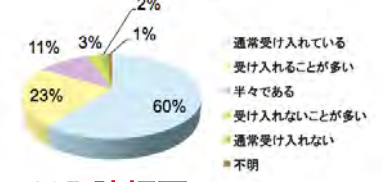
Novel plasma biomarker surrogating cerebral amyloid deposition  
APP669-711/Aβ1-42

認知症疾患医療センター  
認知症疾患診療所

### 身近型認知症疾患医療センター候補医療機関とサポート医の認知症対応力の比較



### 認知症患者の緊急入院



介入前の4倍

サポート医  
(研修終了3000人)  
DM control 重要

早期発見  
早期支援チーム

家族の相談が半数  
介護保険利用は1.4倍

介護予防サロン

早期発見に加え  
多職種介入モデルの成功

認知症短期集中リハビリ  
認知症G8レガシー  
イベントで評価

身体疾患救急

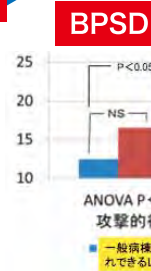


在宅

家族教室による  
介護負担RCT研究

社会性負担感  
燃えつき度に改善

5%入院拒否



認知症看護  
教育(3年目)  
Dementia Support Team  
(県内展開)

一般病院の  
認知症教育  
(テキスト  
DVD完成)  
履修後の  
理解進捗  
大きな課題

BPSDの程度により  
一般病院入院可能レベルを  
判定可能に

鳥羽 研二 | 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 理事長

## 急性期病院における認知症患者の入院・外来実態把握と医療者の負担軽減を目指した支援プログラムの開発に関する研究

### 背景

- 超高齢化社会を迎え、急性期病院においても認知症患者の身体合併症治療を提供する機会が増加
- 急性期病院において、認知症患者の入院の特徴、支援体制の実態、効果的な支援方法について、検討がなされていない
- 2025年問題に代表されるように、高齢者が地域で安心して過ごすためには、急性期病院でも認知症に対応できる体制

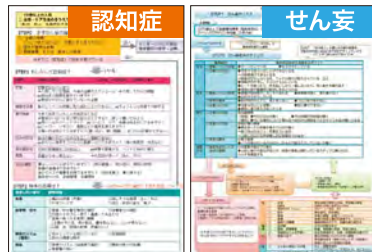
急性期病院の認知症ケアの実態調査  
対象：全国2900施設(そのうちDPC対象施設1578施設)  
内容：海外の医療監査を参考に、  
転倒・事故の把握状況  
入院時のアセスメント  
療養環境  
退院支援  
地域連携  
回収率：54%

結果：  
医療安全  
転倒のうち認知症が関連 29%  
事故のうち認知症が関連 16%

支援体制  
療養・支援マニュアルを整備している施設 6.0%  
認知症が関連する事例の把握している施設 24%  
入院時の認知機能アセスメントを実施している施設 19%

### プログラム開発

- 急性期病院の現状に即した(身体合併症治療を想定した)項目の選定
- 行動科学の手法に基づき、行動変容を意図した教育プログラムを開発
- プログラム(講義、動画を用いたアセスメント実習、対応フローシートの作成、その運用解説)



### せん妄

- プログラムの臨床効果検討
- せん妄の覚知向上(3→15%)
  - 予防的ケアの実施向上
  - 事故の発生減少
  - プログラムの公開

### 認知症

- 実施可能性・効果検証
- 2施設67名に実施
  - 31項目の臨床技術向上を確認
  - 1施設で導入・臨床効果検討





## 公益財団法人 長寿科学振興財団とは

本財団は、国立長寿医療研究センターの設置とともに、国の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」の重要な柱として位置付けられ、各界からの幅広いご支援のもとに、我が国の長寿科学研究を側面から支援する財団として、平成元年12月に設立されました。

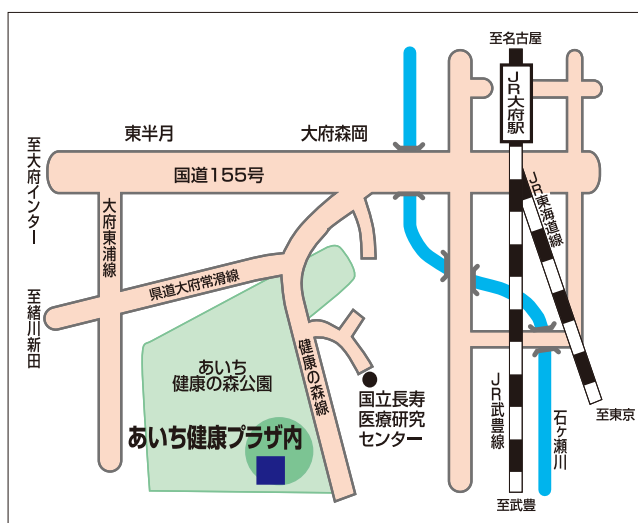
本財団には、昭和天皇の一周年祭にあたり、天皇陛下・皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する思し召しにより、昭和天皇の御遺産から、更に平成13年4月には、香淳皇后の御遺産から御下賜金が賜与されました。

世界一の長寿国である我が国において、長寿科学研究の振興は、極めて重要な事業であることから、厚生労働科学研究の各種推進事業の遂行に努力し、これからも『明るく活力ある長寿社会』の構築に、貢献して参ります。



公益財団法人 長寿科学振興財団

<http://www.tyojyu.or.jp>



公益財団法人 長寿科学振興財団

〒470-2101 愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1番地1

あいち健康の森 健康科学総合センター4階

TEL.0562-84-5411 FAX.0562-84-5414

E-mail:soumu@tyojyu.or.jp